

1 まちづくりとキャッチフレーズ

まちづくりを行うとき、その具体的な取り組み内容には、「行政等が行うような他の地域にはない個性的な施設づくり」、「地域の特徴を生かしたイベントの開催」、「地域の良さをPRするための広報媒体の工夫」などといったものや、地域の人々が取り組む「地域に密着したさまざまな活動」などがあります。

しかし、その取り組みを行うには前段として、**まちづくりの目標やイメージをどのように周りの人に理解してもらうか**ということが大切です。今回は、目標やイメージを理解してもらう上で有効な手段となる「**キャッチフレーズ**」とまちづくりの関係について考えてみたいと思います。

キャッチフレーズの効果

まちづくりのためのワークショップを行う場合に、最初に、そのまちのキャッチフレーズを設定するという作業をする手法がよくとられます。これは、地域のイメージやまちづくりの目標を端的に現す言葉（キャッチフレーズ）を考える作業が、その地域で一番魅力的なところや特徴を選定することになり、作業過程で、地域をよく理解しまちとして個性のある将来の目標を考えることにつながるからです。

キャッチフレーズを設定するという事は、まちづくりに取り組む上で必ず必要なものではありません。

しかし、キャッチフレーズを設定することによって以下のような効果が期待できます。

- ◆ キャッチフレーズがあることにより、住民が自分たちの住む地域に良いイメージを持ち、まちづくりへの関心や郷土愛、定住意識が高まる。
- ◆ 地域外の人に地域のイメージを理解してもらえ。また、良いイメージを持たれることによる、地域への関心・支援の意識づくり、人の訪れ、企業・人材の進出などをもたらす。

キャッチフレーズの例

まちづくりに関するキャッチフレーズの代表的で身近な例には、県内の各市町村が設定しているキャッチフレーズがあります。それらのキャッチフレーズは、短い言葉の中に工夫をこらして各市町村の個性・特色がよく表現されています。

例えば

福島市 : しなの里に自然と人情が織りなす人間尊重都市 ふくしま
会津若松市 : きりりいにしえ・今輝いて未来発信
郡山市 : 水と緑がきらめく未来都市
いわき市 : 創りたいゆたかな明日伝えたい誇れる いわき

などです。

これらのキャッチフレーズは、様々な媒体においても広く使われており、住民の方であれば必ず見たことがあるのではないかと思います。

スペースの都合で、県内の一部の市のキャッチフレーズしか紹介出来ませんが、皆さんが住んでいる市町村にもすばらしいキャッチフレーズがあり、よく目にされているではないでしょうか。

あなたのまちのキャッチフレーズ

家族や友人などと一緒に、市や町や村といったレベルまでいかない、もっと身近な範囲で、あなただけのまちのキャッチフレーズを考えてみるというのはいかがでしょうか。新たなまちの発見があるかもしれません。

まちを知るといことは、まちづくりの最初の一步です。

2 県内の「まちづくり」情報～会津本郷町の取り組み～

今回は「会津本郷のまちなかのにぎわい」を取り戻すため、各種団体等とともに中心市街活性化事業をスタートさせた会津本郷町の例を照会します。

会津本郷町は、会津盆地の西南部に位置し、会津本郷焼が広く知られているように、古くから窯業で栄えた町です。町を歩くと、裏通りに荒壁の土蔵が点在するなど、焼き物の町らしい情緒があふれています。平成15年4月に県道下郷・会津本郷線が開通し、「氷玉峠」を經由して、江戸時代の佇まいを今に残す下郷町の「大内宿」と会津本郷町が僅か30分足らずで結ばれるようになりました。これにより観光ルートとしての魅力が向上し、いままでより多くの観光客が会津本郷町に訪れる可能性が生まれました。そういった中で、町でも、瀬戸町周辺で「街なみ環境整備事業」を進めるなど、まちなかを良くしようとする取り組みを行ってきました。それにもかかわらず「空き地・空き店舗」が増えるなど、まちなかの機能が弱体化してきている状況でした。

そこで、住民の方や観光客を気持ちよく迎え入れ、まちの活力を回復させ、地域の経済を再生するために、町では様々な「中心市街地の活性化」に取り組むこととし、中心市街地活性化事業をスタートさせました。また、平成16年3月には中心市街地活性化事業をになう組織（TMO）として「株式会社会津本郷振興公社」を認定しました。



会津本郷町「中心市街地活性化基本計画」より



中心市街地活性化事業は、「市街地の整備改善のための事業（基盤整備等）」と、「商業等の活性化のための事業（魅力的な店づくりをはじめとするソフト事業等）」を組み合わせられており、それぞれ独自に取り組むのではなく、関わる人々が協調・協力しながら進められています。

「会津本郷町中心市街地活性化基本計画」に定めた事業の一部は以下のとおりになっています。

- ◆ 主に町が、関係機関と協力して進める事業の例
「街なみ環境整備事業」、「会津本郷町インフォメーションセンター」設置等



街なみ環境整備事業による公園整備
整備前



街なみ環境整備事業による公園整備
整備後



小公園



町民によるワ・クショップの様子

◆ 主にTMOが関係機関と協力して進める事業の例

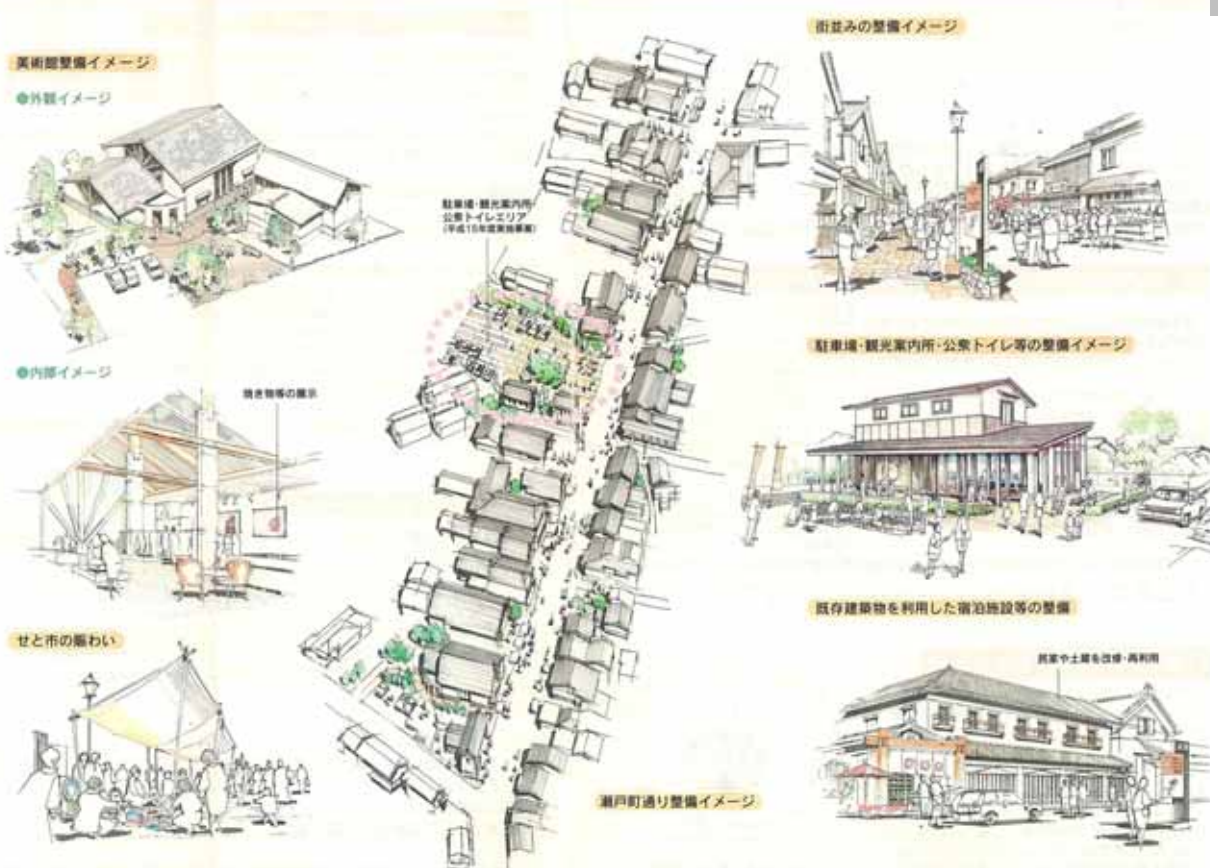
- 「空き店舗を活かした新たなお店づくり」
- 「店内のお店の商品をまとめて注文できた宅配される仕組みづくり」
- 「仮定やお店などに眠る品々を『お宝』として展示するイベントの開催」
- 「会津本郷焼き販売所の整備」

など

平成16年度から本格的に事業を開始しており、「なんでも屋御用聞き宅配事業」の実験事業に着手しています。

こういった事業を組み合わせによる整備イメージは下図のようになっており、会津本郷町中心市街地活性化への効果が期待されています。

会津本郷町中心市街地活性化事業イメージ



3 行ってみたいこんな街 ～青森県黒石市（こみせ）～

「こみせ（小見世）」とは、藩政時代からほぼそのままの形で今に残っている木造のアーケード状の通路のことです。昔の商店通りだったこの道は、買い物に来た人の為に、夏は暑い日差しを遮り、冬は吹雪や積雪から人を守るため、軒を連ねていた旅籠や呉服屋、商家が自分たちの敷地内にアーケードを作った人情溢れる通りです。葺（しとみ）という板をはめ込み、雪の侵入を防いでいるところもあります。黒石市の「こみせ」のように、現在もまとまった形で残されているのは全国的にも類例がないといわれています。

黒石市の「『こみせ』の町並み」は「日本の道百選」にも選ばれ、また、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などが並んでおり、何とも風情を感じさせる通りです



アーケード



高橋家



造り酒屋

4 編集後記

「うつくしま、まちづくり推進レポート Vol.15」はいかがでしたでしょうか。今後とも充実した内容となるよう努力していきたいと思っておりますので、取り上げてほしい事例やご意見、ご要望、ご質問などございましたら遠慮なくお寄せ下さい。

メールマガジン（無料）の申し込みをご希望される方は、
1. 団体会社名、2. 氏名、3. メールアドレス、4. 電話番号等（送信エラーの際のご連絡のため）、
よろしければ、5. 性別、6. 年齢を記入の上、**まちづくり推進グループのメールアドレス**まで希望する
旨ご連絡下さい。（E-mail : machizukuri@pref.fukushima.jp）
登録された方には、レポートの更新情報などをメールにてご案内いたします。

【発行元】 福島県 土木部 都市領域 まちづくり推進グループ
電話：024-521-7510
FAX：024-521-7956
E-mail : machizukuri@pref.fukushima.jp
U R L : <http://www.pref.fukushima.jp/toshi/machizukuri.html>